

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

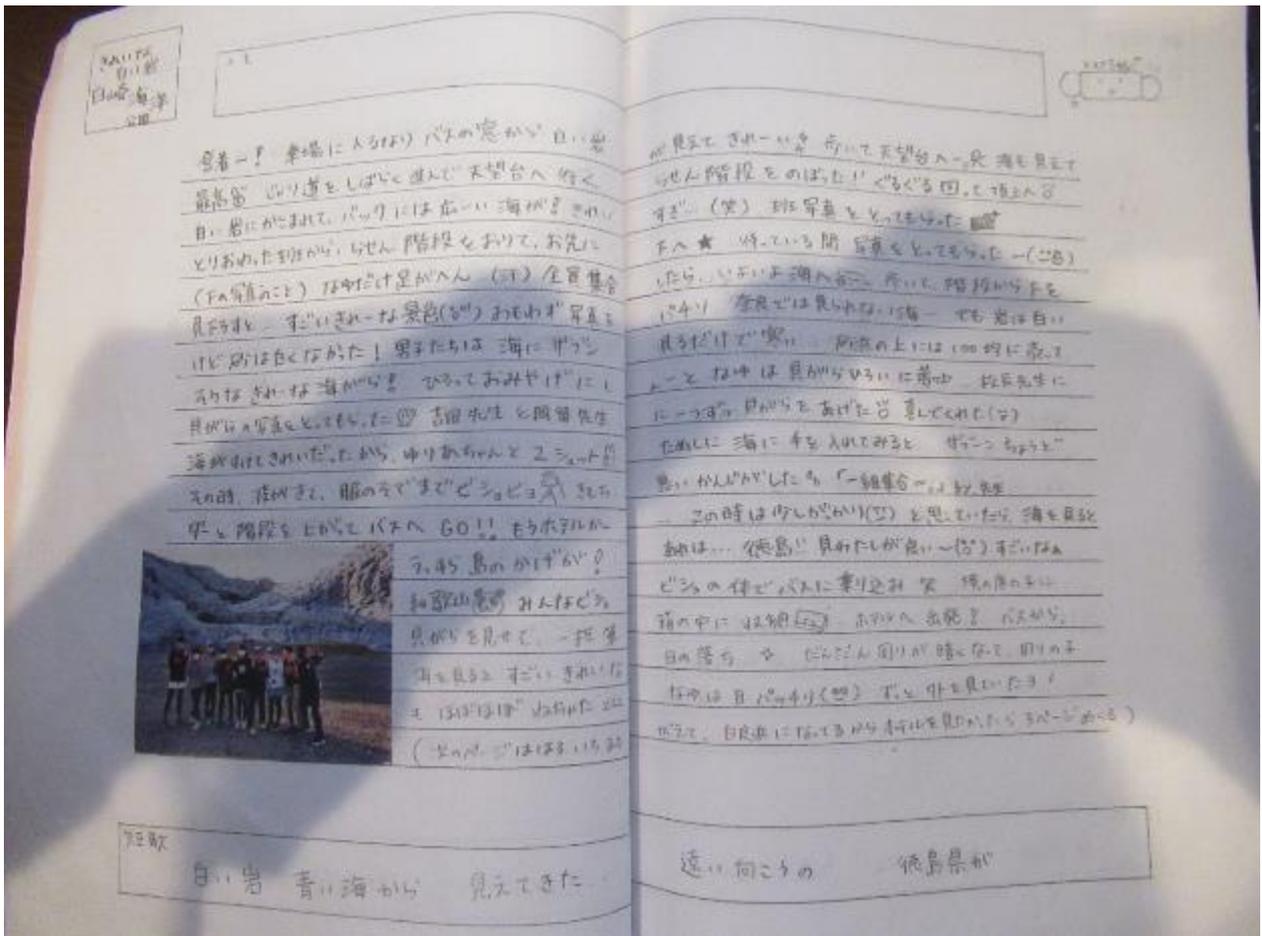
奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日時 令和3年2月13日(土) 10時~12時
- ◇方法 Zoomによるオンライン会議システム
- ◇参加者 石原(平城小)
岩城・池田(学生)
阪口(万葉文化館)
米田・大西(奈良教育大) 計6名
- ◇内容

1. **実践報告** 石原先生 6年国語「修学旅行の思い出を残そう」

例年とは違う特別な修学旅行の思い出を残すためにはどうしたらいいだろうか。

子どもたちの手でしおりを作成 修学旅行を特別なものに
万葉集の長歌・反歌形式に旅行記を仕立てる



児童の振り返りより

- ・いろいろと難しかったけれど、いつもやるのとはまた違った感じがして面白かった。
- ・修学旅行に行った後書いたらもっと書きたかったなあってなったから、千三百年前の人たちもいっ

ばい書きたいけど絞って絞ってどうしても書きたいことを書いたのかなって思った。生きている時代はめっちゃ違うけれど、昔の人の気持ちをちょっとでも実感できたと思った。

- ・奈良時代の人と同じことをしているってなんだか不思議です。
- ・しおりに書いたたくさんの思い出を、万葉集のように、未来の自分などが読んでくれたらいいなと思う。
- ・千三百年前の人と同じことをして、この場所に昔住んでいた人と少しはつながれたんじゃないかなと思った。
- ・千三百年前の人々と同じことをしているって、なんだか歴史的なことをしている感じで、わくわくしました。
- ・すらすら書けるときとすらすら書けないときがあった。けどすらすら書けたら気持ちよかった昔の人もこんな感じだったのかな……。
- ・昔の人は、五・七・五・七のリズムで書いているから、難しそうやけどやってみよう。

成果と課題

振り返りにあるように、万葉集の長歌・反歌形式に旅行記を仕立てることによって、昔とのつながりを児童それぞれが実感的に捉えることができたと考える。また、文字にすることで時代を隔てても思いは伝わるということ万葉集から学ぶことで、旅行記を記すことの意味を一人一人にしっかりとめさせることができた。ただし、しおりの仕立てとして旅行記の分量が多く、とにかく必死で書き切るということに児童の意識が向いてしまった。そのため歌を推敲したりすることについて、あまり指導することができなかった。

よくある「思い出を短歌に残そう」では、表現の工夫を意識させることになりがち。

単なる作文の旅行記では、あれもこれもとだらだら書いてしまう。

その点、長歌・反歌形式で書かせることで、伝えたいこと（思い）を焦点化しやすかったようである。

「思いを残す」というところに、昔の人と同じだというつながりを感じることができた。

2. 指導案検討 池田千晴さん（学生） 6年国語・書写

指導案として作成するのは初めてなので、すべてが手探りで一応形にはしてみたが。

	児童の活動	教員の支援
1. みつめる 目標：万葉集に対する興味をもつ。	<ul style="list-style-type: none">・写本から今と昔の違いを見つける。・写本の時代並べ替えゲームをする。・複数の写本の中から一つだけ違う時代の写本を探す。	<ul style="list-style-type: none">・子どもが違いを見つけられるように資料を全体が見えるものと、文字をピックアップしたものの両方準備する。・子どもの解答はどんな内容であれ積極的に拾っていく。・受動的な児童も巻き込んで活動できるように、子どもの目線で一緒にゲームを楽しむ。

<p>2. ふかめる</p> <p>目標：当時の文化を理解し、現代の私たちの生活に当てはめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・万葉文化館の職員の方の話を聞き、万葉集についての知識を深める。 ・当時の人々と現代の自分たちの生活・価値観の違いを見つけてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容が深まるように状況に応じて職員の方に質問をなげる。
<p>3. しらべる</p> <p>目標：古典を好きになろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の図書館やパソコン室を利用して、和歌の意味や作者、エピソードについて調べ、自分のお気に入りを見つける。 ・見つけたお気に入り紹介をグループで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やパソコン室での補助を状況に応じて行う。 ・子どもが主体的な活動になるように注意する。
<p>4. ひろげる</p> <p>目標：書いて残して伝える。 自分の表現を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの和歌や、万葉集の中から素敵だと感じた言葉を探し題材にする。 ・選んだ言葉を筆で書き、一字書にする。 ・言葉の意味や自分のイメージに合わせて色を付けたり、かすれさせたりする。 ・卷子や鳥の子用紙にみんなで和歌を一首書く。 ・書体は自由にして表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卷子の準備 ・自分の書きたい言葉や気持ち、表現が分からない児童の心の整理の手伝いをし、決して押し付けにならないように注意する。 ・専門的な書道ではないので、出来るだけ児童の自由な個性を見守り、引き出すような言葉かけを行う。 ・辞書などの作品制作の助けになるものの準備。

評価はどうすればよいのか分からないので教えてほしい。

各自のお気に入りが見つかって、それを説明できるということが大事なのではないだろうか。

いくつかのお気に入りから一つに絞っていくところがいちばん大事。

これは自分が編集者になって選ぶ作業（万葉集の編者と同じ）

いきなり「どれが好き？」と言われても子どもは分からない

教師側からいくつかを例示して、そこから選んでいくという活動の方がハードルは低い。

万葉集も卷子に入れていることから、「巻6の1」のようにできるのでは。

最後の筆で書く活動の時に、例えば「かすれさせたい」という子は、なぜかすれさせたいのかという思いを持つことが大切。

3. 指導案検討 岩城雄大さん（学生）

5年国語「地域にある詩歌の題材、香具山を知り、感じたことを俳句や短歌で表そう」前の授業構想の提案時では教科が絞れていなかったが、国語科として作成している。

明日香小学校の子どもにとっては、自分たちの住んでいるところが万葉集の舞台であることは分かっているけれども実感がない。そこで生活する者が価値をいちばん気付いていない。

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と方法
1	1	○学習の見通しを持つ ○朗誦をする ○説明をする	・わくわく感を持たせるために校外学習があることは知らせないが、昔の人に思いをはせることを伝える。 ・はっきり唱える。 ・説明は歌の説明をする。補足的に奈良時代の人々の暮らしや文化の説明をすることもある。	・はっきりと聞こえる声で唱えているか【イ】 ・昔の人々の考え方を知れたか【ア】ノート
	2	○絵画で描く ○初発の感想を書く	・教師も黒板絵として描く。児童は自分で描いてもよいし、黒板絵を写してもよい。	・自分が考え、思い描いた内容を表せているか【イ】ノート、短冊切りの感想
2	3	○校外学習	・徒歩とバスで国営飛鳥歴史公園・甘樫丘展望台、天香久山・國常立神社に行く。	・昔の人の頃から変わらぬ風景を感じ取れているか【ウ】発言
	4	○風景をメモする ・メモは甘樫丘展望台で ○実際に山へ登って感じたことをメモさせておく	・最後のまとめで感想と考 え、俳句・短歌を書くための材料にさせる。	・自分が考えたことについてしっかりとメモがとれているか【イ】メモ ・天平衣装を着た人の絵を持っていき、相互性を感じさせる
3	5	○俳句・短歌を作ってみる ○授業の感想を書く ○最後の朗誦をする	・メモしておいた題材を使って俳句・短歌を創作させる。 ・ノートの5行ほどを色鉛筆で囲ませ、感想を書かせる。 ・暗唱できていれば好ましい。	・表したいものがクラスメイトに伝わっているか、しっかり書けているか【イ】発表・ノート ・今までの学習を踏まえて感想が書けているか【イ】ノート ・暗唱できていなくても減点はしない

外で感じたことを共有する時間が必要ではないか。

俳句・短歌を作る前に、明日香の価値に気付くような活動が必要かと思う。

「メモを取る」というのは、子どもはなかなかできない。メモ指導が大事。

メモを取らせようとすれば、ある程度万葉集の知識も必要。

見るポイントを設定しておいて、メモの見本を示すことがあってもよい。